



高等部では、6月6日（月）～17日（金）までの10日間（土日を除く）、「産業現場等における実習」に取り組みます。今回は、実習についてのお話と、ご協力いただきたいポイントについてお話します。

高等部になると、毎年2回（6月、10月）に「産業現場等における実習」を行っています。高等部になると実習がある・・・というのは知っているも、何のために、どんな風にして実習が進められているのでしょうか。詳しくお話していきます。

## 産業現場等における実習の目的

「勤労の意義について理解するとともに、職業生活に必要な能力を高めて実践的な態度を育てる」ことを目的に行われます。ここで大切なことは、「**勤労の意義について理解する**」こと、「**職業生活に必要な能力を高め**」、「**実践的な態度を育てる**」ことです。けっして、「就職活動」として行うのではないというところがポイントです。



## 産業現場等における実習の内容

実習先によって取り組む内容は様々です。仕事（作業）内容の熟達ではなく、実習を通して、**実際の職業生活を体験**することや、**職業生活に必要な事柄を理解**していきます。



## 校内実習・集団実習

高等部1年生と、様々な事情により、時期をずらして実習へ行く2, 3年生を対象として実施します。本校では、6月はつがる地球村での環境整備、10月はつがる地球村での環境整備や近隣の農家さんでの農作業を行っています。校内実習や集団実習は、働く力の基礎を身に付ける大事な機会となります。働くために必要な体力をはじめ、継続して最後まで取り組む力、集中して取り組む力などを高めていきます。6月の実習は、初めての長丁場での実習なので、体力的にも精神的にも大変ですが、この2週間での成長は目を見張るものがあります。

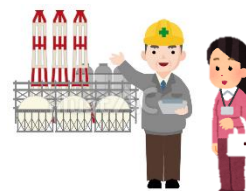
さらに、報告会で、2, 3年生の実習の様子を聞き、次年度以降の実習や将来について考える機会とします。



## 実習先の選び方

実習先の希望は、本人や保護者の希望をもとに調整します。その際には、特に本人の希望を大切にしています。「自分が実習先を考える」「自分が進路先を考える」ことで、**自己選択・自己決定の機会**をもつことができます。

保護者のみなさまにとっては、コロナ禍で施設職場見学もないため、情報量が少なく、実習先を決める材料が乏しい状況にあるかと思えます。まだ大人数での見学はできませんが、それぞれの希望に合わせて随時、見学も行っておりますので、いつでも進路指導部へ声をおかけください。



## 複数の実習先の経験を！

高等部入学時点で利用したい事業所が決定しているというケースがあります。進路への関心も高く、保護者の方が積極的に取り組んでいらっしゃる結果かと思えます。もし、進路希望が決定している場合でも、生徒の視野を広げたり、就労への可能性を検討したりする意味でも、実習時には、複数の実習先での経験をしておくことが大切です。

## ご協力をお願い

・実習前（2～4週間程前）に、実習先へ挨拶と打合せに行きます。基本的には、事業所の利用者さんが帰った後の15：30以降に行きます。当日は、学校へのお迎えと、生徒と一緒に事業所へ伺い（担任も同行します）、挨拶と打合せをお願いします。

・実習前には通勤練習をしてください。実習中は基本的に自力での通勤もしくは、保護者の送迎での通勤となります。事業所には送迎車もありますが、利用契約はしていないため、事故等があった際の保険の対象外となります。まれに、事業所のご厚意で送迎していただける場合もありますが、基本は保護者の送迎による通勤となります。

・実習中は、普段とは違う環境の中で、緊張した日々が続きます。1週間が終わるころには、体力がある生徒でも、疲れが見られるようになります。お家での食事や睡眠など、いつも以上に生活管理をお願いします。2週間、元気に最後までしっかりと実習に取り組むことで、生徒たちは達成感や充実感を得られ、これが次の学習や実習、就労意欲へとつながります。

・各学級では、実習期間中の日々の目標や振り返りを記入する「実習日誌」を準備し、生徒たちに持たせています。毎日の作業終了後に振り返りをし、実習先の担当者からコメントをいただいています。この実習日誌は、連絡帳代わりにもなりますので、毎日目を通し、できれば家庭からも一言コメントを記入してくださいませようお願いします。

・実習中は、週に何度か学校の職員が実習先を定期的に訪問して指導・支援をします。その際には、生徒の健康状態や疲労の程度、作業の状況、職場での対人関係、休憩時間の過ごし

方などについて観察したり、担当者に聞いたりしています。実習中に何か気になることがありましたら、いつでも学校へご連絡ください。また、実習中に、保護者の方にも見学をお願いしています。実習先での活動を見ていただくことで、実習日誌でのやりとりだけでは得られない安心感をもつことができます。また、お子さんの（将来の）生き方や家族の支援、就労観を具体的に考える機会となります。

### 最後に・・・

事業所によっては、日頃の多忙な支援の中で、産業現場等における実習にご協力をいただいております。上記に関して可能な限りご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

なお、産業現場等における実習は、学校の教育活動の一環として行っているものです。実習先へのお礼の金品は必要ありませんので、ご理解ください。

産業現場等における実習は、以前からどの学校でも重視して取り組んできています。この実習を単に就職を実現するための学習と位置付けるのではなく、就職を維持するための学習、働くことにやりがいを感じる学習、職業生活の質を高める学習と捉え、取り組んでいきたいと思っています。

よろしくお願ひします



## 人生の質を高めるために・・・ 第1回：【自分を知る生活】

子どもたちは、自分の能力、得意、強さ、弱さをどれだけ知っているでしょうか？私たち大人は自分のことを知っているので、できることは一生懸命取り組みますし、できないことは周りの人に支援（協力）をお願いします。意識してそうしているかという、そうではありません。自分を知っているから自然にできるのです。自分を知るということは生活の基礎、基本です。自分を知ることができなければ、生活は成り立ちません。自分を知ると、できることは意欲的、主体的に取り組むようになりますし、できないことは周りに支援を求めるようになるはずでず。

できないことをできるようにするよりも、できることをもっとできるようにすることで、できることの質を上げ、「誰にも負けない」、「自分に自信がもてる」ような、できることを身につけましょう。人は誰でも「これには自信があります」「これは得意です」というものがあれば、できることは主体的に行動することができますし、できないことは支援を求めることができます。ぜひ、子どもたち一人一人が、自信のもてるものや得意なことを一つ一つ増やしていけるような、日々の学びや生活にしていきましょう。

次回第2回【自分の存在を実感しよう】へ続く。

